

# 疾走する ハンパパッケージ ミュージック

原 雅明 + 編集部

Photo: Nakamura Tohru

Location: CUSTOM AUDIO JAPAN

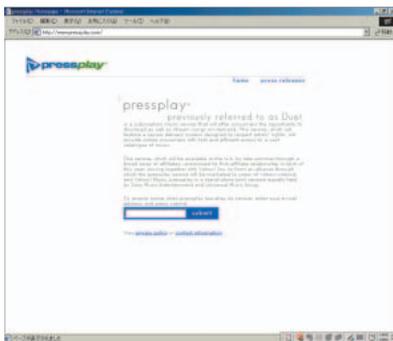
前々回よりお届けしてきた音楽配信用語ガイドもいよいよ今回でラストとなり、同時に当連載も最終回を迎える。しかし、今後の音楽配信普及に大きなインパクトを与える可能性の強い「NetMD」が発表され、あたらしい音楽配信サービスの登場を予感させる。現在、音楽配信の技術や商品価値に対する批判は多いのだが、CDでさえ20年前の登場時には「こんなもので音楽を聴くヤツは一部のマニアだけだ」といった否定的な意見が大半でありながら、持ち歩きに便利な点が若者の支持を集め、約10年でパッケージソフト用メデ

ィアの主流となったのだ。音楽配信の登場の背景にはネットワークの普及という「時代の必然性」があり、音楽配信サービスは3年後には多くの音楽ユーザーにとって欠かせない存在となるだろう。またその時は単にCDの代替ではなく、もっと豊かな経験をわれわれに与えてくれるものになっているはずだ。

それでは、当連載に長い間お付き合いいただいた皆さんへの感謝を込めて、最終回をお届けしよう。

# 「NetMD」ほか、話題の新語が続々登場！ 保存版・音楽配信用語ガイド 後編

今回は、まず前回からの続きということで、2001年末以降話題となりそうな用語を解説する。文中の「」付き用語については、前号および前々号の当連載に解説があるのでご参照いただきたい。そして後半は、当連載最終回にして最大の注目アイテムである『NetMD』の話題で盛大に締めくくる。日本で音楽記録メディアのデファクトスタンダードであるMDが進化すれば、ノンパッケージミュージックの疾走はさらに加速するだろう。



## 【プレスプレイ】

pressplay

[www.pressplay.com](http://www.pressplay.com)

米のSMEとUniversal Musicによるサブスクリプション・サービス。名称がDuetから変更された。



## 【ミュージックネット】

MusicNet

[www.musicnet.com](http://www.musicnet.com)

米のWarner Music、BMG、EMIによるサブスクリプションサービス。Real Networksが技術協力している。

## 【ムーブ】Move

「SDMI」規定の1つで、パソコンに保存されている楽曲を「PD」に転送し、それを別のパソコンに転送し、さらに別のPDに転送する、というように、メディアを移動（move）するたびに転送元の「ライセンスキー」を無効とし、転送先のメディアに権利を次々と引き継いでいく技術のこと。ムーブではユーザーが希望する機器での楽曲再生が自由なので、元のパソコンに拘束される「チェックアウト/チェックイン」よりも使い勝手が良くなるかもしれない。また、将来はパソコン以外の機器同士でのムーブも実現可能だろう。いろいろなパターンでのムーブを実現する解決策として、機器とサーバーとの通信によりムーブを一元管理する構想も存在する。

## 【セット・トップ・ボックス】

STB / Set Top Box

欧米ではテレビのことをTVセットと呼ぶため、テレビに接続されるCATVや衛星放送の専用端末をセットトップボックス（テレビの上の箱）と呼ぶ。ネットワーク対応のSTBは、電話線とテレビを接続し、パソコンがなくてもインターネットを利用できる機

器として1998年に登場した。しかし、当時の一般家庭のネットワーク環境はダイヤルアップ接続が主流だったため、つけっぱなしの常時接続環境であるテレビとの相性は悪かった。ところが現在、常時接続環境の普及に伴いSTBへの期待が高まりつつある。世界的に大きなシェアを持つレコード会社のユニバーサルミュージックを買収した、フランスのビベンディは、同社がヨーロッパで普及させたSTBを通じて音楽配信を行う構想を発表している。日本では今後、家庭に普及しているゲーム専用機の音楽配信対応に期待したい。

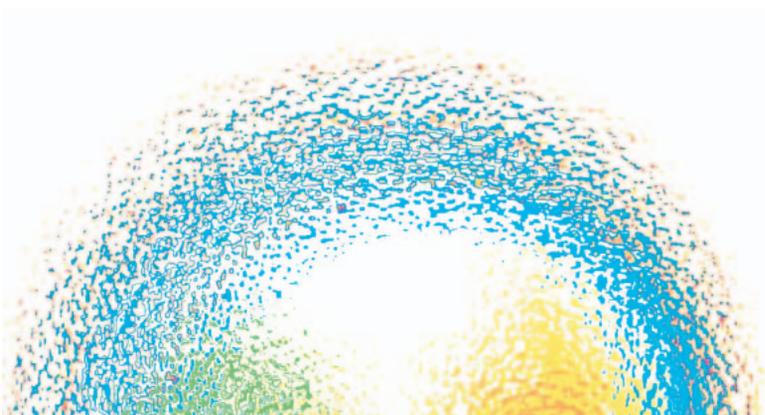
ビベンディ会長のコメント

[www.vivendiuniversal.com/servlet/com.coteba.ipresse.communique2?support=6&code=675&userlangue=EN](http://www.vivendiuniversal.com/servlet/com.coteba.ipresse.communique2?support=6&code=675&userlangue=EN)

## 【サブスクリプション】

Subscription

雑誌の定期購読（Subscribe）から転じて、定額制の音楽配信サービスをサブスクリプションと呼ぶ。ナプスターの影響で有料の音楽配信が困難な状況と言われるアメリカでさかんに研究およびインフラ整備が進むサービスモデルで、内容は「ストリーム」とダウンロードの両方が検討されている。日



本では、ストリームなら有線放送、ダウンロードならケータイの着信音配信としてすでに馴染みのあるサービス形態だろう。しかし、実際のサービスではさまざまな工夫が必要だ。たとえば、ストリームの場合は、現在無料で聴けるラジオとの差別化を図るためにオンデマンド化は必須だ。また、ダウンロードの場合は使用期間限定のレンタル型にするなど、ユーザーのニーズにどこまで細かく対応できるかが今後の勝負の鍵となりそうだ。

pressplay  [www.pressplay.com](http://www.pressplay.com)  
 MusicNet  [www.musicnet.com](http://www.musicnet.com)

### 【エム・ディー・エル・ピー】 MDLP

現在発売されているブランクディスクに対して、2倍または4倍の長時間ステレオで録音できる新規格のこと。従来のMDで使われているATRACという「コーデック」をもとにした「ATRAC3」を採用し、長時間の録音を楽しめる。2000年末以降に発売されたMDコンボやポータブルMDプレイヤーの多くは、『MDLP』記録方式に対応している。再生の際には、MDLP対応の機器が必要だ。

SONY 製品紹介  
 [www.sony.co.jp/sd/products/sonyaudio/mdlp/](http://www.sony.co.jp/sd/products/sonyaudio/mdlp/)

### 【ネット・エム・ディー】 NetMD

パソコンからダウンロードしたATRAC3の音源をMDに転送するという、2001年6月末にソニーから発表された画期的な技術のこと。

NetMD製品の情報はまだわずかだが、パソコンからMDへの転送には、NetMD製品

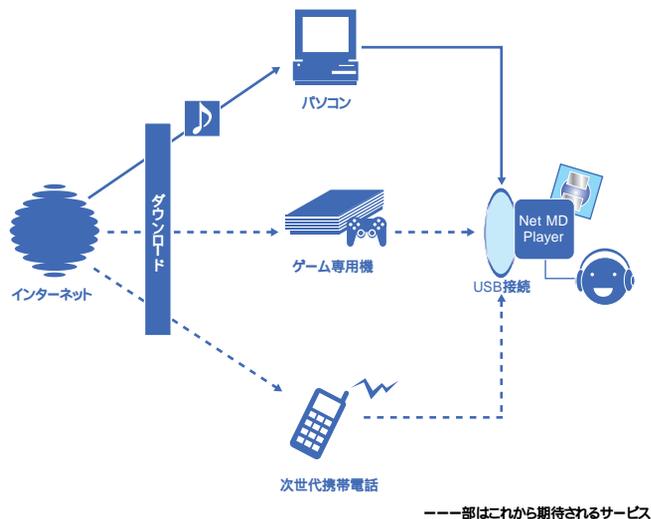
に付属するソフトウェアを使用し、NetMDはパソコンとUSBで接続される。また、楽曲演奏時間の8倍速で書き込み、当然MDとしての使い勝手も飛躍的に向上するだろう。気になるNetMD製品の発売時期だが、2001年の秋以降、多数のオーディオ機器メーカーから次々に登場するらしいという説が今のところ有力だ。NetMDの登場により、音楽配信の利便性が向上し、ADSLなどのブロードバンド導入に対するモチベーションも上がるだろう。

日本の大手レコード会社によるパソコン向け音楽配信でもっとも広く採用されているコーデックであるATRAC3で圧縮された曲を、ダウンロードしたパソコンから持ち出して聴くには「メモリスティック」対応の「PD」が必要となる。しかし、音楽配信対応のメモリスティックは364Mバイトで約1万8千円と大変高価なため、その普及は非

常にゆっくりだった。しかし、NetMD最大の魅力はなんといっても安価な音楽記録メディアであるMDがそのまま使える点に尽きる。確かにメモリスティック対応PDのコンパクトかつフューチャリスティックな魅力は色褪せていないのだが、ランニングコストではNetMDの圧勝である。今後の展開として期待したいのは、FOMAやcdma2000などの高速化する次世代携帯電話あるいはゲーム専用機との接続だ。パソコンベースで徐々に増加してきたインターネット人口がモードの登場で一気に倍増したように、音楽配信の今後を左右する重要なテーマは「脱パソコン」の実現であり、NetMDがその突破口となるのはまちがいない。これは来年にも証明されるだろう。

SONY プレスリリース  
 [www.sony.co.jp/SonyInfo/News/Press/200106/01-037/](http://www.sony.co.jp/SonyInfo/News/Press/200106/01-037/)

Net MD展開の想像図



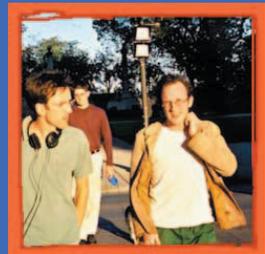
# 海外の音楽配信サイトにInterview Net Age Music #6 「BBCONLINE Mixing It from London」

 [www.bbc.co.uk/radio3/world/mixingit.shtml](http://www.bbc.co.uk/radio3/world/mixingit.shtml)

音楽配信サービスの現場の声をピックアップしながらレポートしてきた本連載の最終回は、既存ラジオ局が手掛けるオンラインコンテンツとして、イギリス国営放送BBCが運営しているBBCオンライン内のMixing Itに焦点をあてたい。BBCラジオは、よく知られているように、幅広く良質な音楽番組を提供しており、ジョン・ピールのような人気ラジオDJも輩出している。BBCオンラインは、BBCラジオの番組構成に準ずる形で、オンラインならではの特性も活かしたコンテンツを展開している。Mixing Itは、特にジャンルにはこだわらず、ロックやクラブミュージックからワールドミュージックまでを視野に収め、独自の鋭い選択眼でアーティストをチョイスし、注目を集めている番組だ。既存のラジオ局とネットラジオ局。その両者の関係は、今後のオンラインコンテンツを考えていくうえでも重要なものとなっていくはずだ。インタビューには、番組の音楽プロデューサーであるフィリップ・タグニー氏と、ウェブサイトプロデューサーのテッサ・ワット氏が答えてくれた。

取材・文：原 雅明

翻訳：パルーチャ・ハシム(HEADZ)



ヘッドホンを首にかけたのが、フィリップ・タグニー

 [www.bbc.co.uk/radio3/world/talsma.shtml](http://www.bbc.co.uk/radio3/world/talsma.shtml)

## ラジオ番組として提供する付加価値

Mixing Itは、BBC Radio3内の番組として1990年にスタートした。

「さまざまなクロスオーバーミュージックや、ラジオに無視されているポピュラーミュージックをかけるショーというアイデアから始まったんだ。起用したプレゼンターの2人はそれぞれ違う音楽的バックグラウンドを持っている。1人は、クラシックの教育を受けた作曲家であり、テレビと映画音楽も手掛けているマーク・ラッセルで、もう1人は元ロックギタリストで、ロックのジャーナリストでもあるロバート・サンダル。Mixing Itのウェブサイトは4年前に始まり、最初はその週のプレイリストだけを載せていたが、今はライブのレビューや映像が見られるようになっている」(フィリップ・タグニー)

実際のMixing Itの制作のようすを聞くと、この番組の自由な雰囲気伝わってくるのではな

いだろうか。

「2週間に1回は、2人のプレゼンターと会議をして、みんなで持ち込んだCDを聴くんだ。ここから、次の2回の番組のプレイリストを私が作成し、その後、スタジオに入って、2人のプレゼンターが曲の紹介をして、それについての会話を録音する。それから、デジタル編集システムで番組用の曲をコンパイルし、放送用にCD-Rに焼く。また、ス

タジオでゲストインタビューを行うこともあって、最近ではデビッド・バーン、レディオヘッドのメンバー2人、ロブ・エリス、シーラ・チャンドラなどに出演してもらった。月に1回、3つのバンドが演奏するコンサートも開催していて、それを録音して編集したバージョンも放送している」(フィリップ)

BBCオンラインの各コンテンツからは、これまでのラジオ局とオンラインのラジオ局が共存していく可能性を感じることができるが、実際はどんなことが見えてきているのだろうか。

「そのことは、われわれもよく考えているんだ。Radio3のストリームを提供し、クリップを配信することは、ラジオのために新しいプラットフォームを提供しているのだろうか？ それとも、独自のコンテンツを制作してさらに進化しているのだろうか？」

Mixing Itのサイトでは、ラジオ番組と同じ方向性で音楽を取り上げており、ビデオウェブキャストとインタビューを掲載することによって、ラジオ番組に付加価値を与えていると思う」(テッサ・ワット)

オンラインのスタジオも、1930年代からBBCの拠点だったロンドンのウェストエンドのブロードキャスティングハウスにあるという。

## 個性的なサイトデザイン

ウェブサイトは、デザインチームによって運営されている。

「ウェブサイトのデザインはジャスティン・スプーナーが担当したもので、彼のデザインの才能はとても研ぎ澄まされたものだ。それは、彼が、現代美術の人気者であるギルバート&ジョージのもとで修業していた経験によってもたらされたものだと思う。彼のデザインが、ほかとは違うオリジナリティーを出しているのは確かだね」(テッサ)

また、Mixing Itのサイトは、海外の新しいリスナー層も生み始めている。今後、どんな可能性を考えているのだろうか。

「このサイトがもっとワールドワイドに新しいリスナーを引き込むことを願っているよ。BBCラジオのほかの番組や音楽サイトでわれわれのサイトがプロモートされており、フィーチャーしているバンドのホームページにもリンクが張ってある。したがって、Radio 3を知らないでラジオから探そうとするより、クリックしてMixing Itのサイトに行くことのほうが楽なんだ。このサイトは、リスナーが音楽的コミュニティに参加している感覚を作り出しており、イノベティブな音楽のための拠点となっていると思う。そして、このサイトはいつでも見られるので(週1回ラジオで聴くだけでなく)、この音楽的な

コミュニティがより身近なものになるはずだよ」(テッサ)

「CDやほかの形態で録音された音楽というのは、ウェブ上の音楽とこれからも共存していくと思うんだ。ひとつとはCDなどの文化遺物的な側面を好む面もあるけれど、場所によって違う形態を利用したほうが便利だと気が始めている。だから、ラジオよりもウェブキャストのほうが手軽なこともすでに実証されていると思うよ」(フィリップ)

### 既存のラジオ放送との境界線

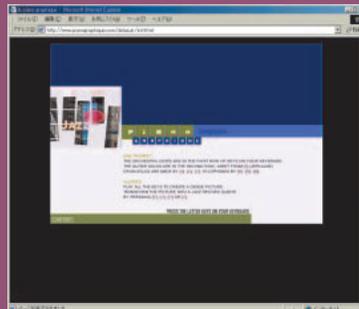
さて、お決まりの質問だが、著作権関係にはどんな対応を試みているのだろうか。「オーディオに関しては、Radio3のライブストリームはすべて契約に基づいている。でも、オーディオオンデマンドになると、違う分野になる。CDや商業的に録音されたマテリアルとなると、30秒のクリップ(ポップミュージック) または45秒から1分(クラシック、ワールドミュージック、ジャズ)の

クリップを掲載している。正式な決まりはまだないが、これが現在BBCオンラインが採っている方針なんだ。それぞれのレコード会社と個人的に交渉をすれば、もっと長く曲を流せるが、それを行うための時間とスタッフがいないのが実状だ」(テッサ)

最後に、音楽配信サービス全般の問題点とオンラインラジオの広がりについて、意見を求めてみた。

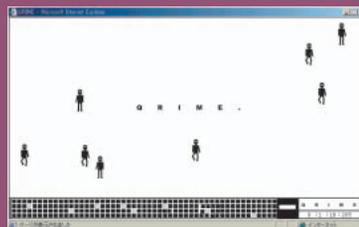
「アーティストやエージェンなどは、もちろんネットの問題は心配している。でも、われわれはこのテクノロジーでは「ダウンロードができない」ことを説明しているんだ。もし、みんながストリーミングオーディオからデジタルダウンロードができるようになってしまえば、大きな問題になるだろうね。いずれにせよ、ネット環境がもっと整備されていけば、既存のラジオ放送との境界はますますあいまいなものになっていくだろう。われわれはそこからようやく、本当のストリーミングの可能性を提示できると思っているんだ」(フィリップ)

## Mixing Itがオススメする ホットサイト current top 4



Jump [www.pianographique.com](http://www.pianographique.com)

キーボードを使って即席で演奏ができるサイト。アイデアが抜群。



Jump [www.qrime.com](http://www.qrime.com)

シュールなアニメーションの宝庫。必見。

## BBC ONLINEの構造



Jump [www.bbc.co.uk/music/](http://www.bbc.co.uk/music/)  
BBC ONLINEの音楽ページの入り口。  
番組の最新情報が一目瞭然。



Jump [www.bbc.co.uk/radio3/world/mixingit/chicago.shtml](http://www.bbc.co.uk/radio3/world/mixingit/chicago.shtml)

Mixing Itでは特集企画もある。これは、海外都市特設で、シカゴオルタナティブミュージックシーンの紹介ページ。



Jump [www.luakabop.com](http://www.luakabop.com)

素晴らしい音楽を提供している注目のレーベル。



Jump [www.state51.co.uk](http://www.state51.co.uk)

センスあるデザインと、優れたアルバム批評。

Jump [www.bbc.co.uk/radio3/playlists/mixingitn.shtml](http://www.bbc.co.uk/radio3/playlists/mixingitn.shtml)

Mixing Itのトップページ。ライブ映像など、オンラインならではのコンテンツも充実している。Mixing Itのラジオ番組で放送された曲のプレイリストも毎週掲載され、曲ごとにリサーチ担当のサムによる解説が加えられている。



## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

**株式会社インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)